

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200524		
法人名	医療法人 山口平成会		
事業所名	グループホーム へいせいホーム		
所在地	山口県岩国市玖珂町11340番地		
自己評価作成日	令和元年 6月 18日	評価結果市町受理日	令和1年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和 1年 7月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は病院に併設しており、定期受診や些細な変化に対応できるだけでなく、急変時にも迅速な対応が可能となっている。それによりご利用者様・御家族さまにより安心を提供できている。病院内には多職種の職員が勤務しているため、気軽に相談・援助が受けられ必要な時に必要なケアの提供ができる。2ユニットの間には中庭・畑・花壇を設けており、園芸療法士と利用者様と共に畑作業や花壇のお手入れなど行うことが出来る。在宅にて過ごされておられた生活習慣をそのまま継続することが出来、皆様の活躍の場・くつろぎの場となっている。月に1回はドライブ、個々のレベルに合わせて地域の行事に参加・希望に応じての買い物の機会もあり、個々が楽しみと生きがいを持って生活できるよう工夫している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会や地域住民から情報を得られて、利用者は職員と一緒に、地域の天神祭やどんど焼き、公民館での門松づくり、地域の高齢者のサロン、ラン伴などに参加されて地域住民と交流されている他、毎年地域住民と利用者、家族との交流を深めるために地域交流会を開催されるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援されています。急変時における医師や看護師の迅速な対応や災害時の防災協力体制の他、マイクロバスの手配により、月に1回は外食や季節の花見などのドライブに出かけたり、園芸療法士の指導でキュウリやゴーヤの種植え、チューリップの苗植え、水やり、ジャガイモの収穫など畑作業や花壇の手入れに取り組んでおられるなど、併設の病院や施設の協力による他職種の職員の支援を受けられて、利用者の楽しみや活躍できる場面づくりを支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念の見直しを行っており、スタッフで話し合って決めた理念を施設内の見えやすいところに掲示している。いつでも確認でき、またその理念が日常のケアの根本になっている	毎年職員全員で理念の見直しを行い、『ご家族との絆、地域社会とのつながりを大切にします。ゆったりと家庭的な雰囲気の中で、自立して過ごせるように支援します。「その人らしさ」を大切にしつつ、笑顔で共に暮らせるように寄り添います。ひとりひとりの尊厳を大切に守ります。』という新たな理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は折に触れて理念を確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でボランティアされている方々や自治会などからお誘いがあり、お祭りや行事に参加している。また地域交流会を開催し、地域とのつながりが途切れないように努めている	利用者は、地域の天神祭やどんど焼き、公民館行事の門松づくりに参加している他、認知症啓発事業の「ラン伴」への参加、地区の婦人部主催の高齢者の閉じこもり防止の集いに職員と一緒に参加して地域の人と交流している。年2回ハンドマッサージのボランティアの来訪がある他、職場体験の中学生と交流している。地元のスーパーや衣料品店で地域の人と挨拶や会話を交わしている。事業所主催の行事として、年1回地域交流会を開催し、地域住民や利用者の家族を対象に普通救命講習会などを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、近隣中学生の職場体験学習、地域交流会の開催などを通じて直接触れあっていただき、認知症の理解や対応についての発信基地となるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で評価項目の内容について主体性をもって熟考し、自己評価を行っている。自己評価の内容が日々の介護の中でどのような意味があるのか把握し業務にあたっている	管理者は、評価の意義を職員に説明している。全職員に自己評価するための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめている。職員は約1ヶ月かけて自分のケアの振り返りとして自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故発生時の備えとしての実践的訓練の実施、家族やボランティアの協力による外出支援など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の目標・身体拘束廃止委員会の会議内容・身体拘束適正化のための研修内容などについて報告を行っている。また施設内での問題や課題についても取り上げ、頂いた意見を現場で活用している	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の現状、施設の状況、行事報告と行事予定、各ユニットの目標と評価、外部評価への取り組み状況、身体拘束廃止委員会の会議や研修内容などの報告を行い、意見交換している。南海トラフ地震について、玄関のプランターの件など、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されている。サービスの内容報告、相談を行っている。所属している岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会の協議会にて担当市職員と積極的な意見交換を行っている	市担当者とは、書類提出時に直接出向いたり、電話やFAXで情報交換や相談を行っている他、岩国市地域密着型連絡協議会参加時に意見交換し、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で相談しているなど、日頃から連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、グループホーム内で11項目の具体的な行為について研修を行っている。認知症ゆえの困難なケースについても法人内の拘束抑制禁止推進委員による勉強会を行っている。玄関の施錠等も付き添いなどで対応している。スピーチロックを行わない介護を目指している	法人研修に参加している他、内部研修で年に2回(身体抑制廃止宣言、スピーチロックの廃止)学び、拘束や抑制のないケアに努めている。スピーチロックについては自己チェックリストによる自己点検の他、気になる場合は管理者がその都度注意している。玄関の施錠はせず、外出したい利用者には職員と一緒に出かけたり、利用者の気持ちに添う支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、グループホーム内で勉強会を行い、ニュースなどで取りあげられている事例を通し虐待者となりやすい背景や環境についても内観・検討を行い防止に努めている。虐待チェックリストを用いて職員一人ひとりが自身の行為を振り返る機会を与えている。職員の内面に精神的・肉体的に問題がないか気を配っている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い知識の向上に努めている。社会福祉士など関係者と話ができる環境にある。入居者様に対して日常生活自立支援事業や成年後見制度が活用できるケースであれば対応できるように支援している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には分かりやすい言葉で契約・解約・改定等の説明を行っている。不明な事柄についてもその都度、ご納得いただけるまで説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご家族様と気軽に意見や要望が言える関係作りに努めている。頂いた意見は記録し全職員が周知し、検討・改善にむけて話し合いを行っている。また苦情相談窓口を設置し、わかりやすい所へ掲示している。契約時にも窓口の説明を行っている	苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を設けて、契約時に利用者や家族に説明している。家族からの相談や意見は、面会時、家族会開催時、運営推進会議時、ケアプラン作成時、電話などで聞いており、出た意見は全職員に周知してその都度対応している。毎月、利用者の写真や担当職員のコメントを添えた事業所だよりを家族に送付したり、面会時に日頃の様子を伝えるなどして、家族からの意見が言いやすい関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年に1回、個人懇談を行い、職員の意見を聞く環境・関係づくりに努めている。挙げた意見を職員会議等で話し合い、業務改善、意識改革につなげている	管理者は、年1回の個人面談や毎月の職員会議、日々の申し送りで職員からの意見や提案を聞いている他、日頃から職員に声をかけるなど意見を言いやすい環境を整えている。職員の意見は管理者が月2回出席している役職者会議に挙げている。法人内の身体拘束廃止委員会や医療安全委員会、給食委員会、図書委員会、学術委員会に職員が参加して意見交換している。職員からは業務手順の変更について提案があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としてコンピテンシー評価を行い、業務に対する貢献度を可視化し職員のモチベーションを向上させるのに役立てている。また個人懇談の場を設け、スキル向上や協働意欲を引き出す職場になるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がテーマを決めて、講師役となる勉強会を毎月行っている。実際のケアの確認の場となっている。また地域の消防署の協力により救命救急講座を開催し、実際に地域の方々とAEDの使用など経験している	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を設け、終了後は復命報告している。法人研修は、年4回の介護技術研修とネットを活用したEラーニング(接遇、腰痛、食中毒、医療安全、身体抑制、情報管理、ハラスメント、感染症、褥瘡、倫理等)に職員が参加している。内部研修は、毎月職員が交替で講師となり、日常生活自立支援事業、ユマニチュード、食中毒、身体拘束、バリデーション、接遇、虐待、感染症、セクハラについて学習し、受講後はレポートを提出している。新人職員には、先輩職員がついて、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着サービス協議者連絡協議会に所属し他施設との交流会や研修会に参加している。関係作り・情報交換を行い、優れた部分を参考にしサービスの質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い、入居者様の現状や要望を把握し不安なく入居できるように準備している。また馴染みの生活が継続できるようなプランニングを行っている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談では特に不安な事や困った事についてお話を伺い、ご家族を含めた支援を行っている。初期の段階から率直な話し合いができるような関係作りに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問でゆっくりとお話をお伺いし、情報収集、アセスメントを行っている。一緒に他のサービスを含め検討している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること、職員側として支援することを合わせて、共同生活を送る者としての意識をもち、家庭的な普通の暮らしが送れるように努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を「陽だまり」にてお知らせし、アットホームな雰囲気をつくることでご家族も介護に参加しやすい環境づくりを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご近所の方々などが面会に来られた際はゆっくりとした時間が過ごせるように努めている。また法人内の他の施設を利用されているご友人のところに一緒に訪問に行き、関係が継続できるように支援している	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、同敷地内施設の知人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流の支援をしている。家族の協力を得て、法事への出席、一時帰宅して親戚との外食、孫の美容院に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や個性を考慮した上で、関係がとりやすいように席の配置や余暇の過ごし方を工夫している。また職員は入居者様が孤立しないように円滑なコミュニケーションが図れる架け橋となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に移られた利用者様のところに面会に行き、これまでの関係性を大事にしている。また、ご家族を含め、困った時には相談・援助を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向・要望はその都度伺っている。訴えることのできない方の思いは日頃の様子や態度などから本人の立場になって推察している。またそれまでの生活歴をヒントにしたり、ご家族の意見も反映している	入居時の事前訪問での情報や家族からの聞き取り、利用していた施設や病院からの情報を元に記録したアセスメント表を活用している他、日々の関りの中での利用者の生活状況を介護記録(電子カルテ)や管理日誌に記入し、担当職員のカンファレンスシートなどから、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は、普段の記録を基にカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、全事業所などから生活歴の情報を収集している。またコミュニケーションを図るうえで蓄積したご本人の自分史を分析し日頃のケアに役立てている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ていねいな観察と記録を行い、毎日の申し送りに職員全員で情報を共有し、ご利用者様の現状把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、担当の看護師、PT、ST、ご家族などの意見をいただいている。頂いた意見をもとにケアカンファレンス、サービス担当者会議を行い、現状に即した目標を掲げるプラン作りを行っている	計画作成担当者、担当職員を中心にケアカンファレンスとモニタリングを毎月開催し、利用者や家族の要望、かかりつけ医の意見、場合によっては法人の理学療法士や病院スタッフの意見も取り入れて話し合い、介護計画を作成している。3ヵ月毎にサービス担当者会議を開催して計画を見直し、本人の状態に変化が生じた場合はその都度話し合って現状にあった介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりに対応した個別の申し送り簿がある。管理日誌には実践したケアプランを記載する項目がある。カンファレンス記録、電子カルテなどを利用しながら気づきが実践に反映されるようなプラン作りを行っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念にとらわれず、柔軟で多様な支援が行えるように努めている。また新たなアイデアが生まれやすいように自由な議論ができるような職場環境づくりに努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心豊かな生活が送れるように、地域の行事に参加されたりボランティアさんに来ていただいている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人やご家族に主治医や希望する協力病院を伺っている。主治医と密な連絡、相談・報告をし適切な医療がうけられるように支援している	利用者や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回受診支援を行い、歯科は訪問診療や歯科衛生士の口腔ケアを受けることができる。他科受診は家族の協力を得て支援しており、主治医の情報提供書を持って受診している。受診結果は、面会時や電話で家族に伝えている。緊急時や休日、夜間は、併設の医療機関の支援を得て、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と日常的に相談・報告を行い適切な連携がとれている。また普段から緊急時の対応、高齢者特有の疾患等についてアドバイスをいただいている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室のソーシャルワーカーと小まめに連絡を取り合い、情報交換、情報収集を行っている。退院後の生活が安心して送れるように収集した情報をもとに、退院後の環境作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が考えられる時は、ご家族の要望を伺い、施設で対応できる範囲を含めて早い段階から話し合いの場を設けるようにしている。ターミナルケアは行っていないが、可能な限り看させて頂く事を入居前に説明し、納得を得ている	契約時に重度化や終末期に事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、他施設や医療機関への移設を含めて方針を決め全員で共有し、支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	アクシデントが発生した時は、対応や状況を詳しく聞き取り、同様の事故防止に向けて事故カンファレンスを開催している。医療安全委員会の委員がそれぞれユニットごとに一名ずついる。また緊急救命の講習会を開き初期対応の訓練を意欲的に学んでいる	対応した職員がインシデント、アクシデントレポートに記録し、管理者と当日の職員で今後の対応と改善点を話し合い、他の職員には申し送り時に共有している。その後は法人の医療安全委員会に報告し、検討した内容は各ユニットに持ち帰り、職員間で共有して再発防止に取り組んでいる。事故対応については、AED講習会への参加や法人の看護師を講師として骨折や誤嚥などについて学んでいるが、すべての職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員に対する応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・風水害訓練・地震対策を行っている。施設近隣の職員が緊急時に駆けつけられるように緊急連絡網を作成している。今後はグループラインを活用する予定である。地域の方との協力体制は築けていないが、消防訓練を見学してご意見をいただけるように声かけをしている	年2回、法人全体の火災訓練(通報、消火、避難訓練)に職員が参加しており、同日の午後からは事業所独自で夜間想定避難訓練を実施している他、風水害や地震時の避難、誘導訓練を利用者と一緒に行っているなど、拠点施設全体で災害時に応じた協力体制を構築している。職員間の緊急連絡網を整備したり、行方不明時の対応方法として緊急時入居者一覧表を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が進行しても、その方をリスペクトするように努めている。また脱衣所のドアきちんと閉めるなどのプライバシーに配慮した対応を行うように努めている	職員は、法人研修(接遇、情報管理、倫理について)や内部研修で学び、理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に努めている。日々の関わりの中でも管理者が常に点検を行い、職員のプライバシーに関する意識の向上に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望を真摯な態度で聞くように努めている。自分の思いを上手に伝えることができない方には、声かけを工夫するなど、想いを自由に表せるようにお手伝いしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりにどのように過ごしたいかの希望を伺い、希望に添えるような支援を行っている。希望を上手に伝えることができない方には、その方の立場になって想像して過ごしていただいている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基礎化粧品やヘアオイル、髪型、こだわりの帽子などその方の身だしなみの好みを把握・尊重し、その人らしく過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな食べ物、嚥下状態など、ご本人が一番摂取しやすく、自宅で食べていた雰囲気にも少しでも近づけるように工夫している。食事の片付け等は役割分担を決めて職員と談話をしながら一緒に行っている	法人の栄養士がたてた献立を基に、法人が用意した食材を利用して朝食と昼食の一部を各ユニットで調理し、それ以外は配食を利用している。職員は給食委員会に参加して、利用者の好みや希望を伝えている。各県の郷土料理や世界の珍しい料理を取り入れたり、利用者に応じて食事形態を変え、食器や盛りつけに工夫して自分で食べられるように工夫している。利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きなどを行っている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べている。季節に応じた行事食やおやつづくり(ホットケーキ、抹茶プリン、チョコレートプリン、スイートポテト、七夕ゼリーなど)、誕生日のケーキづくり、梅ジュースや梅シロップ漬け、売店でパンを買って食べる、夏祭りでかき氷やたこ焼きを買って食べる、家族と外食するなど、食べることを楽しむ機会を色々と工夫して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを毎食行い、状態把握に努めている。またお好みに応じて寒天ゼリーやHSウォーターを提供するなど一人ひとりの状態にあった工夫を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態・ペースに応じた口腔ケアを行っている。歯科衛生士と連携をとりアドバイスをいただいている。食前・レクリエーションの際は「お口の体操」を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態を把握するため排泄状態等を記録している。立位が困難な方は職員が二人対応でトイレでの排泄維持ができるようにケアを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄ができるように、声かけや見守りで対応し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼らず、寒天ゼリーや水分摂取など個々に応じた取り組みを行っている。便秘予防のため散歩や体操などの運動面からも働きかけを行っている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	「一番風呂が良い」などのお好みに応じ、順番や声かけのタイミング、清拭か入浴かの選択など希望に応じて柔軟な個別対応をしている。	入浴は、月曜日から土曜日の13時30分から15時頃までの間可能で、利用者の状態に応じて機械浴やシャワー浴、一般浴、足浴、清拭など安心して入浴できる支援をしている。日曜日は全員清拭で対応している。柚子湯や入浴剤、石けんの種類など色や香りを楽しむ工夫をしている。入浴をしたくない利用者にはタイミングをずらしたり、職員を変えて声かけするなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で過ごされていた時の生活パターンに合わせたお昼寝の誘導・介助を行っている。夜間も熟睡できるように様々な工夫・ケアを行っている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局に効能、用量、注意点、副作用などの相談を行い、助言を頂いている。体調に変化があれば内服薬の副作用も念頭に入れて主治医への報告・相談を行っている。服薬ミスを防ぐために、毎日職員二人で声に出して確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ペットのお世話(うさぎ、金魚)・野菜の収穫(中庭の畑)・田植え(プランター)・グリーンカーテンへの水やり・創作活動などを一緒に行っている。	テレビ(ニュース番組)やDVD(昔の暮らし)視聴、新聞や雑誌を読む、折り紙、貼り絵、ちぎり絵、季節の飾りづくり、箱づくり、脳トレ(漢字、計算)、歌、カラオケ、リハビリ体操、口腔体操、風船バレー、輪投げ、ボーリング、押し花の作品づくり、園芸療法、手づくり楽器の音楽会、書き初め、豆まき、バレンタインデー、ひな祭り、母の日、誕生会、夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会、ハンドマッサージ、中学生との交流、ほうきやモップを使って自室の掃除、うさぎのえさやり、草取り、野菜の世話と収穫、花の苗植えと水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、繕い物、野菜の下ごしらえ、下膳、食器洗い、テーブル拭き、おしぼり巻きなど、活躍できる場面をつくり、一人ひとりに応じた楽しみごとや気分転換を支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望を聞いて、毎月1回はドライブに出かけ気分転換を図っている。また個別ケアとしてご家族の援助のもと、ご自宅や地域の秋祭りなど外出できるように支援している	近隣への散歩や買い物の他、季節の花見(梅、桜、バラ、あじさい、菜の花、コスモス、もみじなど)、ドライブ(錦帯橋空港、下松スポーツ公園、冠梅園、丸太村など)、高森天神、初詣、公民館など外出の機会をつくっている。家族の協力を得て、法事への出席、一時帰宅して親戚との外食、孫の美容院に出かけているなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はおられないが、職員付き添いのもと売店で買い物ができるように支援している。またユニットでの外出先でお土産などを選んで頂き、購入するなど普通の生活が送れるように努めている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの絵手紙はいつでも眺められるように工夫している。希望があればご家族と電話でお話ができるようにご家族の了承の下支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭で季節が感じられるように工夫を凝らしている(ゴーヤのグリーンカーテン・春には満開の桜の木々・畑で収穫する旬の野菜など)。季節に応じた飾り付けや生花を飾り入居者方々の談話のきっかけになっている	食堂や居間は明るく広々としており、金木犀、銀木犀、桜の木々、夏野菜の畑や花壇が見えて自然を身近に感じることができる。畳のコーナーやゆったりとしたソファ、広い食卓、椅子を効果的に配置し、季節の花を飾り、テレビを楽しんだり、気の合う人とおしゃべりしたり、思い思いの場所でくつろげるように支援している。壁には利用者の作品や季節の飾り物を掲示し、室内の温度や明るさ、音を適切に調節し、換気にも配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋でゆっくりと一人で過ごされたり、リビングの共用ソファで気の合う方とテレビを見ながら談話をされたり、それぞれ居心地良く過ごされている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具、こだわりの寝具、思い出の写真などをお持ち頂いている。お部屋は主の個性が表され自然体で過ごせるように援助している	ダンス、テーブル、イス、テレビ、衣装ケース、時計、仏壇、カレンダー、料理本、ぬいぐるみなど自宅で使っていた馴染みの家具や思い出の品を持ち込み、折り紙の作品や夫、家族の写真を飾るなど、本人が居心地良く過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口に分かりやすい目印を設置するなどしている。「できる能力」を見極めつつ安全を確認しつつ見守りを行い、ご本人の能力が維持できるように自立支援を行っている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム へいせいホーム

作成日: 令和 元年 12月 2日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全ての職員が初期対応の実践力を身につけているとはいえない	全職員が実践的な初期対応を身につける	AED講習会、研修などで実践的な応急手当、初期対応の定期的訓練の実施	1, 5年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。